

出雲地区防犯ボランティア連合会(島根県)



青パト隊勇士が出雲大社に集結。いざ出陣！

全国一の数を誇る青パト隊と青色防犯灯で 安全・安心なまちづくりを推進

1 安全・安心なまちづくりに向けた取組みへの歩み

(1) 防犯パトロール活動の開始

出雲地区防犯ボランティア連合会結成前の平成13年6月、同連合会発足の中心となった「大社町町内会長連合会」が、「子どもたちの安全は地域で守ろう！」との理念のもと、大社町町内会長連合会において、「大社町幼稚園・学校安全ネットワーク」を立ち上げ、安全安心なまちづくりに向けた防犯パトロール活動を開始した。

(2) 青色回転灯防犯パトロール(青パト)活動の開始

平成16年12月、「大社町町内会長連合会」は、防犯パトロール活動に続いて、中国地区で初めてとなる青パト隊を結成。海岸線でのローリング族による暴走行為と海浜公園での深夜花火による苦情電話が多数寄せられたことから、青色回転灯を装備した車両によるパトロール活動を開始し、駐留監視や警察への通報等を行った結果、大幅に減少する成果があがった。このため、各地区において青パトの拡大に向けた気運が高まった。

2 出雲地区防犯ボランティア連合会の立ち上げ

市町村合併に伴い、各防犯ボランティア団体同士が連携を密にして、より効果的・効率的な運用を図るとともに、青パトの活動をより広範に行うため、「大社町町内会長連合会」が中心となり、出雲警察署管内の防犯ボランティア団体に対し、「互いに協力し合って、みんなで地域全体を守ろう」と呼び掛け、平成17年12月、出雲地区防犯ボ

ランティア連合会を立ち上げた。

同連合会は、当初 31 団体で立ち上げ、定例事業として、青パト実施者講習を開催したほか、青パト申請の指導や合同パトロール等の推進を図った結果、本年 9 月末では、48 団体（構成員約 5,000 人）に拡大している。

3 青パト隊の拡大に向けた取組みと活動内容

(1) 青パト隊の拡大に向けた取組み

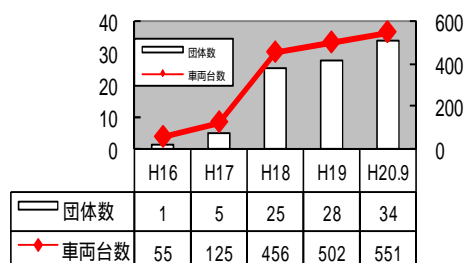
青パトの講習会を設定し、各団体に受講するよう積極的に働き掛けたほか、青パトの実施者が講習会に出向き、その体験談を発表した。その結果、実施者による体験談の発表が受講者の好評を得、青パトの結成が促進された。

地区防犯協会に対し、青パトの実施に必要な青色回転灯やマグネットシートの支援を依頼し、実施団体の負担軽減を図った。

青パト隊未結成の団体から「青パトを実施したいが、その有効性等を地域全体に宣伝するため、実際に青パトで走ってもらいたい。」との要望を受け、各団体の青パトをデモンストレーションとして派遣し、結成の促進を図った。

青パト講習の受講団体に対し、青パトの申請に必要な書類の作成方法や申請に必要な青色回転灯の取り付け位置の写真撮影、運輸支局への申請方法等について個別に支援している。

青パト隊の交通事故を防止するため、平成 19 年から自動車学校で運転技能訓練を実施している。



(2) 団体数・車両台数の増加状況

平成 20 年 9 月末現在、出雲地区防犯

パトロール連合会において青パトを運用している団体の数は 34 団体、青パト車両台数は 551 台と引き続き増加している。

(3) 青パト隊の活動状況

平成 19 年 4 月ころから出雲市駅周辺等において、夜間のオートバイによる爆音暴走が問題となったことから、同年 6 月より、毎週水、金、土曜日の午後 9 時ころから午後 11 時過ぎころまでの間、青パトによる駐留警戒等を実施した。また、海岸線におけるローリング族対策や花火対策として、監視パトロール及び駐留警戒等を実施したところ、いずれも大幅に減少した。

4 青色防犯灯の設置

平成 18 年 7 月、出雲地区防犯ボランティア連合会では、犯罪に強いまちづくりに向け、青色防犯灯の設置を推進するため、モデルとして出雲市大社町の各町内会長に青色防犯灯の設置を呼び掛け、町全体の 9 割にあたる 1,166 基の防犯灯を青色防犯灯に切り替えた。さらに出雲市内の町内会長に対しても設置を呼びかけたほか、事業者から青色防犯灯の贈呈を受けるなど、設置を促進した結果、平成 20 年 9 月末現在、217 地区に 4,195 基が設置されている。

5 出雲地区防犯ボランティア連合会の運営

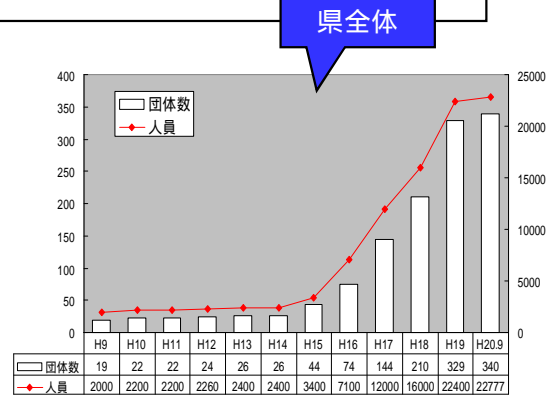
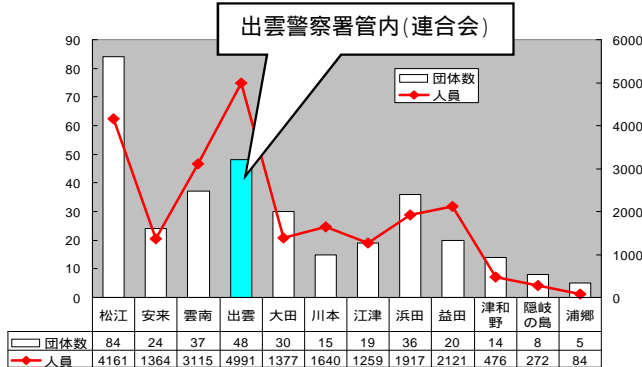
連合会所属のほとんどの団体は、公民館などの公的機関を事務局として使用しており、電子メールやファックスにより相互に連絡を取り合っている。また、金銭的負担を軽減し連合会への加入がしやすいように心掛けている。

出雲地区防犯ボランティア連合会における防犯ボランティア団体の結成状況

(H20.9末)

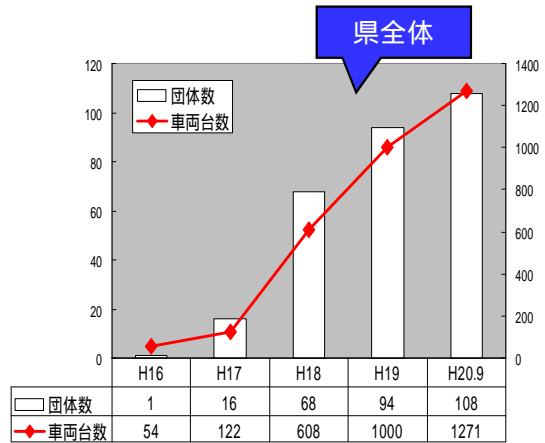
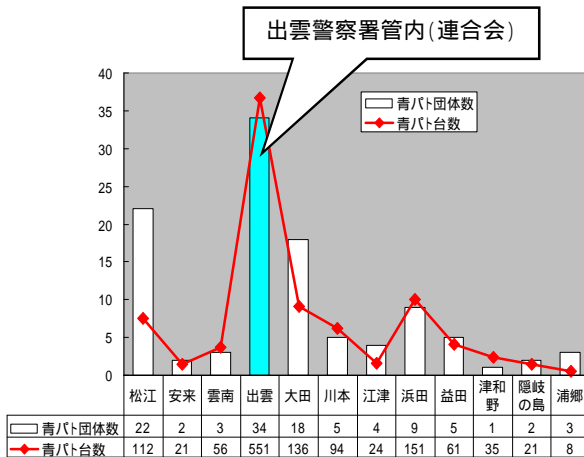
1 防犯ボランティアの状況

防犯ボランティア団体数 48団体、約5,000人



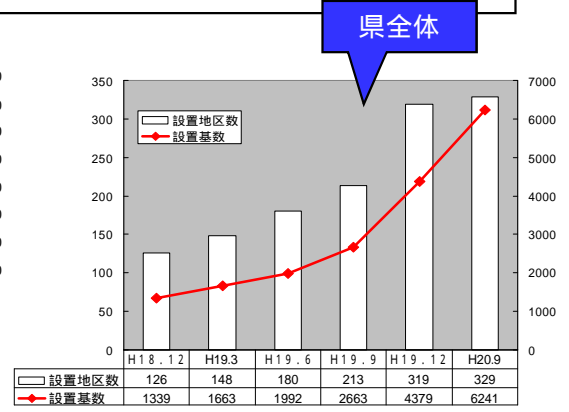
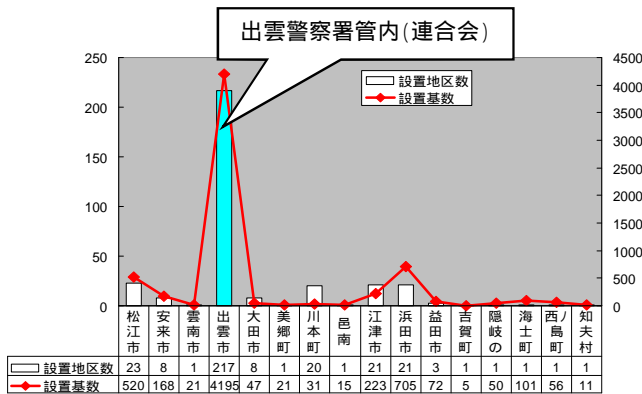
2 青色防犯パトロールの状況

青色防犯パトロール団体数 34団体、551台



3 青色防犯灯の設置状況

217地区に4,195基設置



出雲地区防犯ボランティア連合会（島根県）

河原：皆様、こんにちは。非常に島根県という名前は売れていません。ですが、出雲大社を知っていらっしゃる方、手を挙げてくださいますか。出雲大社は知っていらっしゃる。縁結びの神様。出雲大社。これを言いますと大概の方がご存じなんです。わたし、その出雲大社の縁結びの神様のひざもとにおります。



平成6年の4月から、まだ今日に至るまで、町内会長をさせられております。町内会長は防犯はもちろんですが、防災、交通安全、福祉、お祭り、みんなやらなきゃいけないです。なかなか大変ではありますが今年もまた町内会長を引き受けたようなわけでございます。

地域概要

わたしの所属しております大社町は、155町内があります。その155の町内会で町内会長連合会なるものを昭和52年に結成しております。町内会長連合会はいろいろなことをやってきております。特に私が、平成8年、連合会の理事となってからは、非常に防犯には力を入れた団体に改革してまいりました。小泉さんが総理大臣になられ、構造改革ということをおっしゃったときに、大社町長内会長連合会も構造改革をしまして、非常に防犯活動のできる団体につくり上げてまいったわけです。平成13年に池田小学校の児童殺傷事件がありました。こうした事件は大社でもいつ起きてもおかしくない。こういった事件は全国どこでもいつでも起きるということが非常にわたしの頭から離れない状態でした。それで大社警察署。今は交番になっていますが、大社警察署と大社町教育委員会。これも今は市町村合併して出雲市になっていますが、それと我々町内会長連合会と三者で、「大社町幼稚園学校安全ネットワーク」を立ち上げたわけです。何をするか。子どもの登下校の見守りをしようということで、地域安全の腕章。あれが腕章では一番安いんです。カタログ見ますと大体、安くても600円から700円、800円。団体名を入れたら1,000円を超えます。そういう予算はありませんので、とにかく一番安い腕章ないかということで大社警察署へ相談したところ、防犯協会でこの腕章を300円で斡旋しておりますという。それを買おうと。それをまとめ買いしまして、町内会に10軒に1枚の割合で配布しました。目的は何か。ただこの腕章をして、子どもが登下校するときに家の前に立って子どもに声を掛けてください。それだけでいいからお願いしたいということで配布をいたしました。そしたら、ありがたいことに、子どもと一緒に学校へ行くおじいさん方がたくさん出ていらっしゃいま

した。非常にうれしい限りで。用事があって朝、子どもさんと一緒に出られないときは子どものほうが心配。「おじいさん、きょう、どうしたの」「病気だろうか」とかね。子どものほうが心配する。そういういい関係が町全体に生まれてきたわけです。いわゆる、腕章して立つだけではなくて、子どもSOSのこともあって、マグネットシートを作りまして、今の自動車にマグネットシートを付けてやる。これは100枚ほどです。それから自転車用もオートバイ用も作りまして、子どもの見守りということを地域を挙げていいムードになってきております。



安全・安心なまちづくりに向けての歩み

まず、青パト隊のお話をさせていただきたいと思いますが、この青パト隊は、大社町町内会長連合会、中国地方管内では民間ボランティアではトップを切ってやっております。青パト隊の申し込み開始が平成16年の12月1日ということで、それまでにすべての段取りをしておかないといけないということもございます。町内会長と町内会長OB25名でこの青パト隊をスタートさせようということでやったわけです。許可、県警本部長の証明書。それからまた、陸運局のOKも取らなきゃいけないということで、結局12月18日に大社町の役場の前で出発式をしたわけでございます。

お金を持った団体ではございませんので、腕章は地域安全の腕章。それから、反射チョッキですね。白黒反射チョッキ。これは大量に買いました。700円程度で。大概、夜、散歩で歩く人など希望者に町内会長連合会としてもこれを配ったわけです。これがまた100本ぐらいだろうと思ってやったところが、900本買わなきゃいけなかった。金がないです。どうしよう。いろんなところへお願いして金を集めてやりましたけども、こういうものは配布しておりますから、改めて買わなくても大概、皆さん持ってるんです、町内会長なんか。それと腕章でやろうと。金がないから。ということで、マグネットシート、それから、回転灯も買わなきゃいけない。そうするとますます金がないという状況でしたけれども、どうにかこうにかそろえ、スタートいたしました。

青パト隊拡大への取り組み

確かにこの青パトは目立ちます。ましてや大社町は観光地ですから。12月になると観光客、そんなには来られません。だけど正月は来られます。すごい数です。やっぱり観光地に警察署がなくなるということに非常に住民は不安を抱いたわけです。だから青パトとい

うことになったわけですが、青色パトカーが走り出してから、やっぱり町の皆さんが安心をされるようになった。子どもたちも登下校に、平成13年からそういうことで腕章をつけて、おじさんやおばさんが子どもを見守ってくれている上に青色パトカーが走るといふことで非常に安心できるという状況になったわけです。そしたら平成の大合併ということで、警察署は交番になると正式に発表がありました。ますます青パトも活躍しなければならない。平成17年の3月に市町村合併しておりますので、警察は4月に再編ということで、大社警察署は交番になったわけです。ですから、そのころ、大体5月、6月ごろには青パトも40台に増やしております。

大社町においては、日御碕街道における週末の深夜の暴走族や海岸の公園での深夜花火が10年以上、悩みの種でした。だけど青パト隊をつくった。「よし」というので、平成17年の6月から駐留警戒、監視パトロールということで出掛けました。都合のつく人だけでいいということでやっている。その結果、4カ所では駐留警戒するわけですが、彼らが来るとすぐ交番へ電話してパトカーに来てもらう。それから、日御碕の駐在さんも、一人だと怖いですが、我々がおりますから、そこからもミニパトを出していただいて彼らを帰らせたり、それから職務質問をしたり、毎週土曜日になるとそれを繰り返す。それをず

青パト隊拡大への取り組み

青パト隊の運転技能訓練
交通事故防止のため自動車学校等で訓練を実施

訓練状況



っと10月いっぱいまでやってきます。その結果、30台、50台集まる車が、毎回、数は少なくなりました。平成17年の10月の終わりごろには15台しか来なくなりました。深夜花火ももちろん減ってきた。平成19年は5台しか来ない。平成20年は0。そして、大社での成果のもう1つは、大社では、大社中学校の女子生徒へ

の抱き付き事案がいつも発生していたんです。しかし青パトが走り出してからなくなった。なくなった結果、先生が子どもたちに勉強、それから部活、これらに一生懸命で力を入れることができるようになった。この結果が、平成18年だか平成19年は10年ぶりにスポーツ界で有名な岸先生の賞を県からちょうだいしました。部活が5つも全国大会ね。珍しいの、こういうこと。成績も上がったんです、生徒の。とにかく校長先生が喜んでいる。今年、ソフトテニスで全国優勝したと、こういう良い結果も、出ております。

こういった一連の流れの話平成17年10月の全国地域安全運動中に、発表をせよということでしたので、出雲地区の防犯ボランティア連合会をつくる前ですけど、警察署の案内で防犯研修会に出掛けていきまして、大社はこういうふうに行っているということでお

話しした。大社だけよくなってもしょうがないから、みんなでよくしようということで、結局、連合会をつくらうという提案をして、大社町町内会長連合会が主となって呼び掛けて防犯ボランティア連合会をつくりました。これ、島根県下で最初につくっております。

そういう中で、青パトのことをどんどんどんどん訴えまして、青パトがない団体は恥ずかしいぐらいの状況下に持っていったわけです。あらゆる団体が手を挙げてくれて、1回の講習に50人から100人出てきました。手続き関係も全ておこないました。スムーズに青パトをやっていただける体制を一気につくり上げました。おかげで、資料に書かれておりますけども、出雲警察署管内としては、青パトの数は全国一の数になっております。



続いてまた青色防犯灯でございますが、これも全国一の数を設置しております。まず大社町で実験してみようということで実験をしました。その結果、また良い結果が出てまいりました。夜間犯罪が減ったんです。

そういうわけで、青パトについてもデモンストラーションを始めいろんなことをしながら、宣伝をしてきました。メディアは必ず来てもらう。テレビも来てもらう。宣伝が大切ですから。そういうわけで、来てない新聞社にはこっちが記事を書いて写真を付けて差し上げ、そこまでやったのです。おかげで有名になりました。去年は内閣総理大臣賞もいただき、非常に喜んでおります。総理大臣賞をいただいたのがやっぱり我々の支えになっております。だから、少々無理は頑張ってやっておりますけども何せわたし一人ではできませんので、みんなでいろいろ協力していただいてやっております。

それから、さっきから青パトのところで質問が出ておりますけど、燃料代は、全部個人負担。個人負担ができない人は青パトやらなくてもよろしいという状況でやっております。

司会：大変ありがとうございました。

ちなみに、青パトの全国の台数というのは約2万台でございますけれども、そのうち約1,000台を島根県が占めております。その島根県の中で中心的に引っ張っていただいている団体が出雲地区防犯ボランティア連合会で、去年は総理大臣表彰を受賞されています。

